

安全・安心・健康・快適

● 「住宅防災」への取り組み

- ▷ 「住宅防災」の考え方
- ▷ 省エネと防災を両立する省エネ・防災仕様
- ▷ オリジナル制震システム「シーカス」
- ▷ まちの発電所「グリーンファースト ハイブリッド」

● 品質向上

- ▷ 部材生産品質向上のために
- ▷ 全社施工品質管理システム
- ▷ 施工力強化に向けた現場合理化の推進
- ▷ 不具合の予防・再発防止体制構築と苦情情報のデータベース化による品質改善
- ▷ グループ会社と協力工事店による任意組織「積水ハウス会」
- ▷ 厚生労働省認定「セキスイハウス主任技能者検定」
- ▷ 教育訓練センター・訓練校
- ▷ 施工マイスター制度、積水ハウスリフォームマイスター制度
- ▷ 施工改善提案制度「私のアイデア-21」

● 生活サポート

- ▷ カスタマーズセンター
- ▷ カスタマーズセンター休日受付センター
- ▷ 長期品質保証制度

● 健康

- ▷ 空気環境配慮仕様「エアキス」の開発と普及
- ▷ 次世代を考えた「エコチル調査」への協力

● ユニバーサルデザイン

- ▷ ユニバーサルデザインの考え方
- ▷ 「スマート ユニバーサルデザイン」
- ▷ 子どものためのユニバーサルデザイン「コドモイドコロ」

● 「コンサルティング・ハウジング」

- ▷ 「コンサルティング・ハウジング」を担う人材の育成
- ▷ 体験型学習施設を通じた「コンサルティング・ハウジング」

「住宅防災」への取り組み

「住宅防災」の考え方

地震大国、台風大国と呼ばれる日本における自然災害に備え、当社は創立以来、災害に強い住まいづくりに取り組み、災害発生時には、お客様の生命と生活を守ることを最優先に迅速なサポートに努めてきました。

2004年8月、その集大成として「住宅防災」の総合的取り組みを発表、具体的な三つの活動を掲げ、取り組みを進めています。

一つ目は、体験型展示やセミナーを通し、防災意識の向上を働きかける啓発活動を行う『人に対して』。お住まいになる方を対象とするセミナーや防災訓練の開催など、防災意識の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

二つ目は、「生活空間」「水・食料」「エネルギー」の確保を考慮した「住宅防災」仕様の開発・普及を進める『住まいに対して』。住まいに対しては大切な生命と財産を守る“シェルター”としての性能がより一層求められるようになってきました。当社は、「安全・安心の技術」に裏付けられた自然災害に強い住宅（例えば地震に強い「免震住宅」）を提供する一方、生命や財産だけでなく、被災後の生活を守ることができる「住宅防災仕様」の開発など、さまざまな角度から住まいの提案に注力しています。

そして、三つめは、自然災害発生時に、いち早くお客様のサポートを行うための「自然災害対策アクションプログラム」の策定を行う『企業として』。

これら三つの活動を基本に、災害に強い安全・安心な住まいづくりと、それを支える企業としての体制を構築し、総合的な「住宅防災」の取り組みを強化してきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災に際しても、特に企業として、お客様の生命と財産を守るという社会的使命を果たすべく、いち早くお客様のもとへ伺い、安否確認、復旧支援に取り組みました。

震災直後で交通網寸断の状況のもと、地震発生3時間後には静岡工場より支援物質の輸送を開始。電話と直接訪問により約3週間でお客様の安否確認および建物の被災状況の確認を終え、復旧工事に着手。「お客様と地域のために」住宅提供や仮設トイレの設置等を行いました。メンテナンスを担当するカスタマーズセンターをはじめ、グループ各社の積和建設および協力工事店で構成される「積水ハウス会」も協力。全国からの、のべ約31万人の施工支援者が、早期の復旧・復興のための仮設住宅や災害公営住宅の建設などを現在に至るまで行ってきました。地震発生から3年以上を経過した現在も積水ハウスグループの総力を挙げて、復旧工事を継続し、一日も早い被災地の復興に向けた取り組みに注力しています。

当社が提案する住宅「グリーンファースト ハイブリッド」は、太陽光、燃料電池、蓄電池を装備しており、万一の災害時や停電時でも電力が使ことができます。また2013年にはネットエネルギーがゼロになる住宅「グリーンファースト ゼロ」を発売し、健康で快適かつ自然と共生できる暮らしを提案しました。

今後も住まいのハード面の提供にとどまることなく、セミナーや防災訓練などを継続して防災意識の啓発、災害時の迅速なサポートなど、総合的な「住宅防災」の取り組みを通じて、安全・安心な暮らしを支える企業として貢献していきます。

■「住宅防災」三つの活動



「住宅防災」への取り組み

省エネと防災を両立する省エネ・防災仕様

住まいに対し、大切な生命と財産を守る“シェルター”としての性能が求められる中、当社は2003年に免震構造により防災性能を高めた「免震住宅」を発売しました。翌2004年には、「被災後の自立生活をテーマ」とし、「日常も使える防災アイテムの提案」として被災時の生活空間確保、水・食料の確保、エネルギーの確保を実現する「住宅防災」仕様を発表。同年、「住宅防災」仕様を満足しながら、同時に快適で省エネ生活に役立つ技術を加えた「省エネ・防災住宅」を発売しました。

また、東日本大震災後の2011年8月には、被災時にも自立生活が維持できる、3電池（太陽電池・燃料電池・蓄電池）自動連動のスマートハウス「グリーン ファースト ハイブリッド」を発売し、2013年には、3電池自動連動システムの蓄電池を、4.65kWh（リチウム蓄電池）、8.96kWh（高耐久鉛蓄電池）、9.3kWh（リチウム蓄電池）の3ラインナップとし、機能向上を図りながら、容量の選択肢を拡充しました。

地震被害は時間軸で考えることが必要。 同時に日常生活でも便利で快適かどうかポイント

「省エネ・防災住宅」は地震対策を時間軸で捉えていることが特徴です。刻々と変わる被災状況を想定し、暮らしを維持できる機能を備えることが、減災のポイントになります。

まず地震発生時に倒壊を未然に防ぎ生命を守ることは当然ですが、地震後の生活に支障がないよう建物の損傷を最低限に抑える「免震・制震技術」を確立。強い揺れによる食器の飛び出しや家具の転倒を防ぐ機能の充実も図りました。次に3日間程度の物流寸断に備えて食糧や水確保のためのストックシェルターや、トイレ用水に使える耐震雨水タンクを設置。さらに、電気やガス等のインフラが復旧するまではエネルギー供給が不安定な時期が続きます。そこで家で電気を創りそれを蓄える太陽光発電と蓄電池システムを備え、エネルギーの無駄を抑える省エネ機能を持たせたのが「省エネ・防災住宅」です。同時に重視したのがこのようなシェルター機能を持った住まいを、特殊な家でなく“普通の家”で実現しました。



「省エネ・防災住宅」のモデルハウスの
建築（明石展示場：当時）



これまでの取り組み

2003年	「免震住宅」の販売を開始
2004年	地震被災後も自宅で一定の生活を維持できる「住宅防災仕様」を開発 免震住宅から一歩進んだ「安心」を提供する住まいとして開発しました。「生活空間」「水・食料」「エネルギー」の確保をテーマに、災害時の情報通信手段を確保したり、雨水タンクを設置したりしています。
2004年	「省エネ・防災住宅」の販売開始 「住宅防災仕様」をすべて盛り込みながら、同時に快適で省エネ生活に役立つ技術を盛り込んだ「省エネ・防災住宅」の販売開始しました。
2007年	制震システム「シーカス」発売 地震の震動エネルギーを熱エネルギーに変えて吸収することで、住まいの揺れを低減し、建物の変形を最小限に抑える当社独自の制震システム「シーカス(SHEQAS)」の販売開始しました。
2011年	「グリーンファースト ハイブリッド」発売 「太陽電池」「燃料電池」「大容量蓄電池(8.96kWh)」をHEMS制御し、快適な生活しながら電力消費を削減、停電時にも自立生活を維持できる「グリーンファースト ハイブリッド」の販売開始しました。
2012年	「グリーンファーストLiB」「グリーンファーストV2H」発売 リチウムイオン蓄電池を搭載した「グリーンファーストLiB」やEVの大容量の蓄電池から充放電が可能な「グリーンファーストV2H」の販売を開始しました。
2013年	「グリーンファースト ハイブリッド」の蓄電池ラインナップを拡充 容量4.65kWh、9.3kWhのリチウム蓄電池をラインナップに加え、機能向上を図りながら容量の選択肢を拡充しました。

【関連項目】

- > [災害時に備えた蓄電池の開発](#) (p.186)
- > [オリジナル制震システム「シーカス」](#) (p.307)

「住宅防災」への取り組み

オリジナル制震システム「シーカス」

制震システム「シーカス」～地震にブレーキをかける家～

2007年に発売した、当社オリジナル制震システム「シーカス」は、「シーカス」ダンパー（鋼製フレームに特殊なダンパーを組み込んだもの）を躯体内にバランス良く配することにより、建物の揺れを低減する制震システムです。

地震時の揺れを小さく抑えることで、せっこうボードやクロスの亀裂、外壁の割れなど、内外装の被害も軽減され、地震後も引き続き、わが家で生活することができます。東日本大震災では震度5強以上の余震が何度も繰り返されましたが、「シーカス」はこの繰り返し地震に対しても効果を発揮し、多くのオーナー様に喜んでいただきました。2013年度は、鉄骨戸建2階建て商品の約87%に搭載されました。



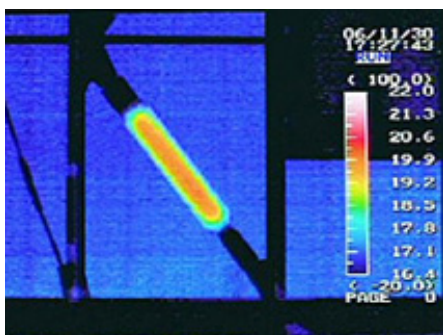
「シーカス」ダンパー



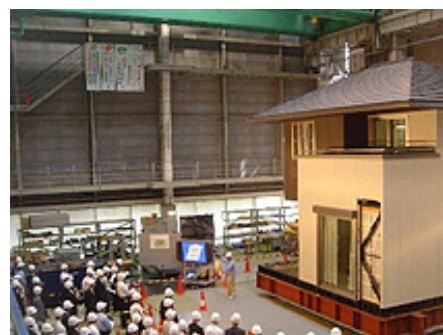
「シーカス」フレーム

「シーカス」の特長

- ① 粘弾性ダンパー（特殊高減衰ゴム）
「シーカス」ダンパーは地震動エネルギーを熱エネルギーに変換して吸収します。
躯体の耐用年数に相当する高い耐久性を備えています。
- ② 建物の変形を約2分の1に低減する。※発生する地震によっては低減効果が異なる場合があります。
地震時の建物の変形を約2分の1に低減し、内外装の被害を抑えることができます。
- ③ 繰り返しの地震に効果を発揮し、耐久性が高い。
- ④ 2007年国土交通大臣認定取得
大臣認定の取得条件として、通常の耐震構造の1.5～2.0倍の大きな地震に耐えうる設計をしています。



地震動エネルギーを
熱エネルギーに変換して吸収



「シーカス」実大振動台実験

「ハイブリッドシーカス」を新開発

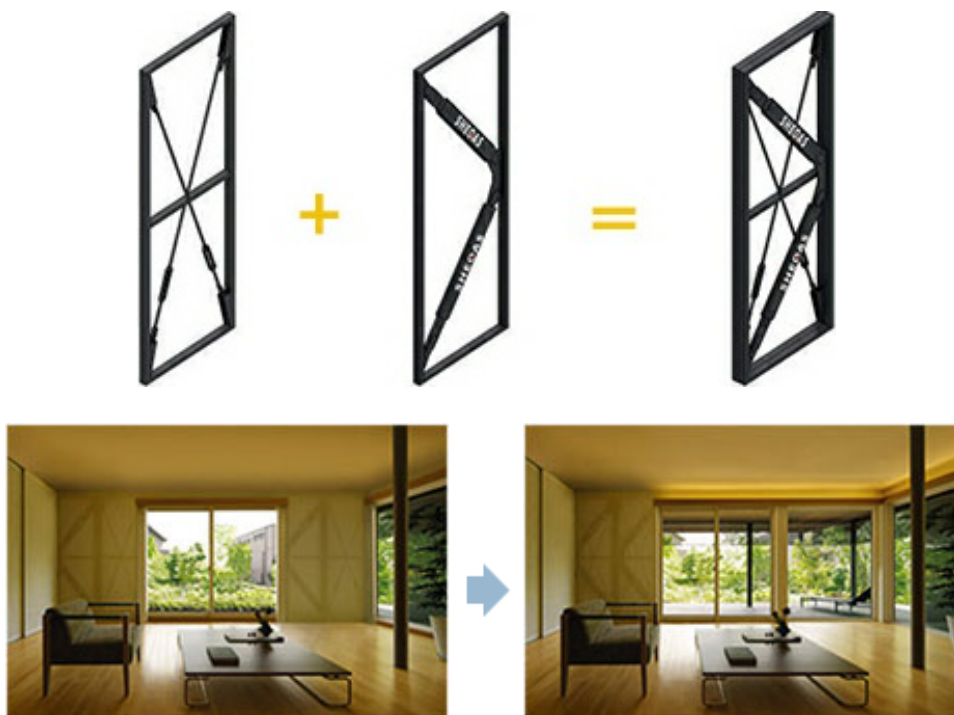
2013年、鉄骨構造の耐力壁とオリジナル制震壁「シーカスフレーム」を、同位置に重ね配置する「ハイブリッドシーカス」を開発しました。

地震に強い建物にするためには、一定量の制震壁や耐力壁をバランスよく配置することが必要です。一方、リビングルームなどには、壁が少なく開放的な大空間への高いニーズがありました。

今回、開発した「ハイブリッドシーカス」は、従来の耐力壁と制震壁を同位置に重ねて配置するもの。これにより、制震性能を維持しながら、プランの自由度を大幅に高めることが可能となりました。

また、耐力壁と高強度耐力壁を同じように重ねて配置する「高性能二重耐力壁」(耐力壁の2.5倍の強度)も新たに開発しました。これらを用いることで、さらに大きな開口を確保することが可能となり、当社が提唱する、屋外と室内とを心地よくつなぐ「スローリビング」の計画性が高まり、自然とのつながりを感じながら、ゆったりと流れる時間を味わえる心地良い空間が、さらに計画しやすくなりました。

■「ハイブリッドシーカス」や「高性能二重耐力壁」で、大きな開口を設けた開放的なリビングへ



「住宅防災」への取り組み

まちの発電所「グリーンファースト ハイブリッド」

2013年10月、3電池(太陽電池・燃料電池・蓄電池)自動連動のスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」の3電池自動連動システムの蓄電池を、4.65kWh(リチウム蓄電池)、8.96kWh(高耐久鉛蓄電池)、9.3kWh(リチウム蓄電池)の3ラインナップとし、機能向上を図りながら容量の選択肢を拡充しました

すべてのシステムで、3電池自動連動制御による自動切り替え、太陽電池全量利用※と蓄電池の自動充電※が可能であり、あらゆるメーカーの太陽電池、燃料電池のメーカーの組み合わせも自由なため、お客様の選択肢も広がります。

大地震以外の停電時には、ガスと水道は供給されている場合が多く、この際は燃料電池で最大で700~750Wを夜間や悪天候でも発電しながら、つくったお湯で入浴も可能。ガスで調理も可能なため、停電時でも、あまり普段と変わらない生活が可能となります。さらに、電気・ガス・水道の全てが止まった場合でも、太陽電池で発電した電力は、全量利用できるとともに、使いきれない場合も、より多くの電力を大容量蓄電池に自動充電することが可能です。

高いレベルの安全・安心な暮らしを実現する「グリーンファースト ハイブリッド」は、互いに連携することで災害にも強い分散型電力供給網であるスマートグリッドにつながっていきます。これからも個々の住まいのエネルギーマネジメントを考えながら、まちレベルへの発展も視野に入れ、取り組みをさらに進化させます。

※ タイプごとに上限があります。



安心 POINT 1
突然の停電でも、スマートな全自動制御!
 最大の特徴は、突然の停電でも5秒ほどで自動で電気が復旧すること(あらかじめ回路設計された居室やコンセント)。切り替えは自動で操作が不要なので、お子様や高齢の方にも安心です。太陽電池の電力を蓄電池へ充電する回路切り替えも自動です。

安心 POINT 2
停電時には、太陽電池で発電した電力を全量利用可能!

一般市販の太陽電池はたくさん発電していても、停電時には最大で1,500Wまでしか電気を利用できません。

太陽光で発電した電力は余すことなく全て利用可能*

発電3,000W

例えば生活に1,500W*

利用可能3,000W

充電に1,500W*

家庭内の生活家電
 洗濯機、テレビ、冷蔵庫

速く、より多く充電ができる

*家庭内と充電に使用可能な電力は、タイプ毎に上限があります。

安心 POINT 3
停電時でも、3電池で普段に近い生活の維持が可能!

戸建住宅、4人家族の1日の電力消費は10~15kWh程度。購れば、ほぼ普段に近い生活が維持できます。水道とガスが通じていれば、**停電時でも入浴**することも魅力です。

1 **太陽電池**
 太陽光発電/1日平均11kWh発電(太陽光発電4kW搭載の場合)
*発電量は天候や季節により異なります。

2 **燃料電池**
 燃料電池/1日平均9kWh発電
*発電量は燃料の種類、供給量、温度により異なります。

3 **蓄電池**
 蓄電池/最大で3.9~7.9kWh利用可(太陽電池の余剰電力で充電も可能)
*使用可能容量は、タイプ毎の容量と蓄電池の残りの容量を併用して決まります。

安心 POINT 4
電気・ガス・水道が止まっても、蓄電池によって生活の維持が可能!

蓄電池のタイプ別連続使用可能時間の目安

冷蔵庫 200W	液晶テレビ 150W	照明(全部) 100W	エアコン 600W
----------	------------	-------------	-----------

350W 連続使用	n22.5時間
300W 150W	n20.0時間
	n11.1時間

1050W 連続使用	n7.5時間
	n6.6時間
	n3.7時間

9.3kWhタイプ
 8.9kWhタイプ
 4.6kWhタイプ

各機器の消費電力は目安(製品毎、季節毎に異なります)。蓄電池の容量は最大3.9kWhタイプ。蓄電池は約7%~14%~3.9kWhタイプ(リアリオン蓄電池)の5%蓄電容量の約10%を確保する条件で計算。

2011年度「新エネ大賞」において「経済産業大臣賞」を受賞

「グリーンファースト ハイブリッド」は財団法人新エネルギー財団(所在地:東京都豊島区、会長:近藤隆彦氏)主催の2011年度「新エネ大賞」において、最上位の「経済産業大臣賞」を受賞しました。「新エネ大賞」は、財団法人新エネルギー財団が、新エネルギーの一層の導入促進と普及及び啓発を図るため、新エネルギーに係る商品及び新エネルギーの導入、あるいは普及啓発活動を広く募集し、そのうち優れたものを表彰するものです。停電時や非常時においても既に蓄電している蓄電池により一定レベルの生活が可能となる「災害に強い住宅」でもある、と時代のニーズに応えている点が高く評価されました。



新エネ大賞
経済産業大臣賞
エンブレム

健康

空気環境配慮仕様「エアキス」の開発と普及

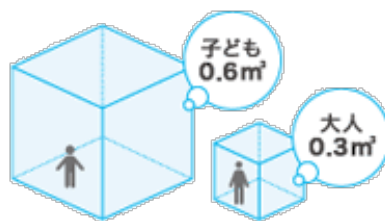
子ども視点で考えた、空気環境配慮仕様「エアキス」

目には見えませんが、食べ物や水なども含め、摂取量が最も多いのが室内空気です。当社はシックハウスが顕在化してきた20年ほど前から室内空気質に関する研究・開発に注力し、さまざまな取り組みを進めてきました。大人より大きな影響を受ける子ども視点で、2007年からシックハウスの原因物質である5種類の主要化学物質について、国の指針値の2分の1以下の室内濃度が実現できる仕様を展開してきました。エアキス発売以降建材のラインアップ拡充を進め、これまでに評価した建材は約600種類に及びます。また、当社の鉄骨系戸建住宅の77.8%にエアキスが採用されるに至りました。

国の指針値の「2分の1以下」で、子ども視点の空気環境を実現

「エアキス」が規制対象とする化学物質は、住宅性能表示制度と同様にホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・ステレンの5つの化学物質です。厚生労働省から室内における濃度指針値が公表されていますが、「エアキス」は子どもを基準に考え、国が定めた指針値の2分の1以下を実現しています。

■ 子どもに与える影響は



大人の約2倍

(体重1kg当たりで試算)

出典：東京都福祉保健局

「化学物質の子どもガイドライン」

	子ども（体重1kgあたり）	大人（体重1kgあたり）
一日の呼吸量	9.3m ³	15m ³
	(0.6m ³)	(0.3m ³)
一日の食事量	1,193g	2,029g
	(79.5g)	(40.6g)

全棟の室内濃度を測定、第三者機関で評価し、性能を確認

「エアキス」では、建物の竣工時に厚生労働省が定めた測定方法を参考に濃度測定を実施します。また、測定データについては公的な第三者機関で分析し、完成した住まいをお引き渡しする際に、その分析結果に基づく空気環境の「性能評価証」を発行。検査を実施した証明書としてお客様へお渡ししています。



竣工時に空気を採取



第三者機関で分析



「性能評価証」を発行

【関連項目】

> [空気環境配慮仕様「エアキス」ホームページ](#) 

シャーマゾン、グランドメゾンへのエアキス展開

2012年からは、当社の賃貸住宅「シャーマゾン」および分譲マンション「グランドメゾン」へエアキスの展開を始めました。「シャーマゾン」については鉄骨戸建住宅の仕様を参考に、入居者の入れ替えなどを考慮した賃貸住宅独自の仕様と運用を検討しました。「グランドメゾン」については構造がRC造で、戸建やシャーマゾンとは大きく異なるため、実験空間建設による濃度評価を行い、その後、実物件による濃度検証を行ったうえで独自の仕様を確立しました。

健康

次世代を考えた「エコチル調査」への協力

当社は、環境省が2011年からスタートした「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の社会全体への認知向上と理解促進のため、同年11月に環境省から「エコチル調査」企業サポーターとしての登録を受けました。

「エコチル調査」とは、胎児期から小児期にかけての化学物質曝露をはじめとする環境因子が、子どもたちの成長や発達に何らかの影響を与えているのではないかという仮説のもと、全国で10万組の子どもの両親の協力を得ながら、胎児期から子どもが13歳になるまで定期的に健康状態を確認することにより、子どもたちの健康や成長に影響を与える環境因子を明らかにしようとする日本で初めての大規模調査です(2014年1月6日現在の参加者数は9万2062人)。

[「エコチル調査」ホームページ](#)

当社は、いち早くシックハウス問題に取り組み、さらに住まいのより良い空気環境の提供に努めてきた住宅メーカーとして、「エコチル調査」の広報支援活動や子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを推進しています。



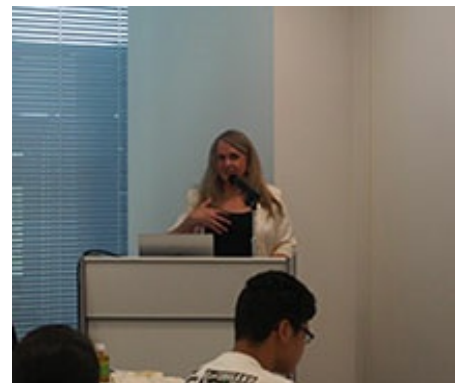
積水ハウスの「エコチル調査」応援メッセージ

住まいのより良い空気環境を追及する積水ハウスは
環境省「エコチル調査」を応援しています。

「子どもを化学物質・アレルギーから守ること」をテーマにセミナー主催

東日本大震災以降、水や食料に対する消費者の関心、意識は大きく変わりましたが、同様に身体に取り込む空気の質についてはまだまだ関心が低いのが実状です。2000年以降、シックハウス対策については法規制などが強化されてきたものの、ぜんそくやシックハウス症候群などのアレルギー症例はむしろ増加しているとの報告もあり、まだまだ対策が必要です。特に子どもたちを基準にした産官学が連携した取り組みの必要性を感じています。

そこで当社は、「子どもを化学物質・アレルギーから守ること」をテーマとした一般向けセミナーを2011年11月に引き続いて主催(2013年6月12日 東京、6月16日 大阪)。環境医学・公衆衛生の分野で世界的に著名なアメリカ・テキサス大学のクラウディア・ミラー博士による記念講演や、ミラー博士の他、千葉大学大学院の森 千里教授、東海大学大学院の坂部 貢教授、当社技術者を交えたパネルディスカッションを行い、空気の質の重要性を広く発信しました。



アメリカ・テキサス大学の
クラウディア・ミラー博士

【関連項目】

> [「子どもの健康と環境に関する全国調査 エコチル調査」ホームページ](#)

品質向上

部材生産品質向上のために

「邸別自由設計」を基本とする積水ハウスでは、必要な部材も一邸ごとに異なります。工場への発注はお客様の邸名で行い、生産がスタートします。自社工場では、柱・梁をはじめとする主要構造材や外壁材などのオリジナル部材を製造。徹底した品質管理のもと、多品種にわたる「邸別生産」を先進設備の導入で効率的に行い、常に性能・品質が安定した高精度な部材を供給できる体制を整えています。

東北工場でオリジナル陶版外壁「ベルバーン」生産開始

2013年9月2日、シャーウッド住宅（積水ハウスの木造住宅）向け陶版外壁「ベルバーン」の製造ラインを東北工場（宮城県加美郡色麻町）に新設し、生産を開始しました。「ベルバーン」製造ラインは静岡工場（静岡県掛川市）に次いで全国2カ所目。東北エリアだけでなく、一大需要地である首都圏を含めた東日本全域への供給拠点となります。

「ベルバーン」は、工業製品として厳しい品質管理のもとに生産され、優れた耐候性・耐水性・防耐火性・強度を誇るオリジナルの外壁材です。モルタル張りのタイルと異なり、地震の強い揺れに耐え、亀裂が入りにくい構造となっています。焼き物ならではの温かみや自然な風合いが特徴で、色あせないため塗り替えの必要がなく、長期にわたり美しさを保ちます。2001年の採用以来、高い人気を誇り、2012年度にはグッドデザイン賞を受賞しました。

新製造ラインの完成により、生産能力が従来比1.6倍となる月産8万m²（うち東北工場は月産3万m²）に拡大。月産で住宅約510棟分相当の「ベルバーン」製造が可能となり、より多くのお客様の要望に応えられる体制が整いました。

東日本大震災被災地の工場に新製造ラインを設けたことで、東北における雇用拡大や地産地消の推進にも貢献しています。



「ベルバーン」製造工程



混合・混練



押出成形



施釉



焼成



品質検査

先進設備の導入で「邸別生産」における品質の安定と生産効率を両立

1棟の住宅を建てるのに必要な部材は、平均約6万点に上ります。多品種の「邸別生産」と、工業化住宅のメリットである合理性を両立させつつ、すべてのお客様に等しく高性能・高品質な住まいを提供するために、工場ラインの整備やコンピューター制御による自動化を推進しています。

2010年には静岡工場に鉄骨構造システムを生産する、127台のロボットによる自動化ラインを導入。従来60%だった自動化率を95%に高め、24時間生産体制や、自由設計で受注した住宅ごとに生産を行う「完全邸別生産」を実現しました。多品種の軸組を「完全邸別生産」できる自動化ラインは住宅業界初です。ロボットのレーザーセンサーにより、形状や溶接位置を毎回確認するなど、製品精度や品質がさらに向上しました。また、施工現場での工程に合わせて生産することにより、出荷や施工効率の向上にも寄与しています。



独自の構造躯体の基幹部材である軸組の製造工程では、工場内で成形されたC形鋼を切断、穴開け後、一邸ごとに組み立てています



最新の溶接ラインでは、熟練の作業者に匹敵するセンシングカメラを搭載した溶接ロボットによって24時間稼働による生産が可能

専任担当者による徹底した品質管理体制を整備

全工程において品質管理を徹底するため、生産ラインごとに専任担当者を配置。原材料の入念な納入検査、部材の抜き取り検査や品質検査、工場技術者の定期的な技能試験などを実施しています。こうした生産品質管理体制の優秀性が認められ、1998年に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を業界で初めて生産部門一括で取得しました。

なお、積水ハウスの自社工場は、そのすべてで発生する廃棄物の100%リサイクルを達成。また、全国5工場（東北工場・関東工場・静岡工場・兵庫工場・山口工場）に、合計6.7MW（メガワット）の太陽光発電システムを設置しています。

品質向上

全社施工品質管理システム

お客様に満足いただける住まいを提供するためには、住まいづくりの全プロセスにおいて品質を高い水準で維持することが必要です。お客様の夢を具体的に図面にする設計品質。工場で製造する部材一つひとつの生産品質。そして、現場で実際に住宅を形づくる施工品質。積水ハウスでは、すべてのプロセスで、建設業法・建築基準法・建築士法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、独自の厳しい基準を設け、均質で高精度の品質を確保。安全・安心・健康・快適で、世代を超えて住み継ぐことのできる長寿命の住まいを提供することに力を注いでいます。中でも「施工品質」は住まいの最終的な出来栄に大きく影響するため、品質管理を徹底。一棟一棟の確実な施工品質管理、継続的な改善活動、施工品質記録の管理・保存を目的に「全社施工品質管理システム」を運用しています。

お客様に高品質な建物を提供するための施工品質管理体制を確立

積水ハウス各事業所の現場監督員、施工会社「積和建设」（100%出資のグループ会社）の施工管理者、指定工事店で構成される「積水ハウス会」が連携して、施工品質の維持・向上のための改善活動を継続し、各々の責任に基づいた検査体制を確立しています。

■ 主任検査員制度

社会的資産ともなる、長期にわたり高い品質を持続できる建物をお客様に引き渡すため「主任検査員制度」を設けています。主任検査員（各営業本部の推薦者で工事店・職方の指導・育成ができる者のうち「主任検査員研修」を修了し、検査員資格を取得した者）は「主任検査員検査」を通じて、事業所の施工品質状況・管理体制・検査能力の把握、現場監督員・施工管理者の検査業務支援、重点管理項目の品質改善活動などを行い、施工品質の向上に寄与しています。

■ 施工品質会議

各事業所の技術次長を中心として「施工品質検査結果」を分析・評価。不具合部位を抽出して、品質改善が必要な事項を検討・共有し、改善計画の立案から具体的な改善活動の遂行まで組織的に実施しています。

■ 認定訓練・検査訓練

検査技術の高水準化を図るため、現場監督員と施工管理者に対し、それぞれ検査員認定訓練・検査訓練を実施。品質管理技能の習得を促進しています。

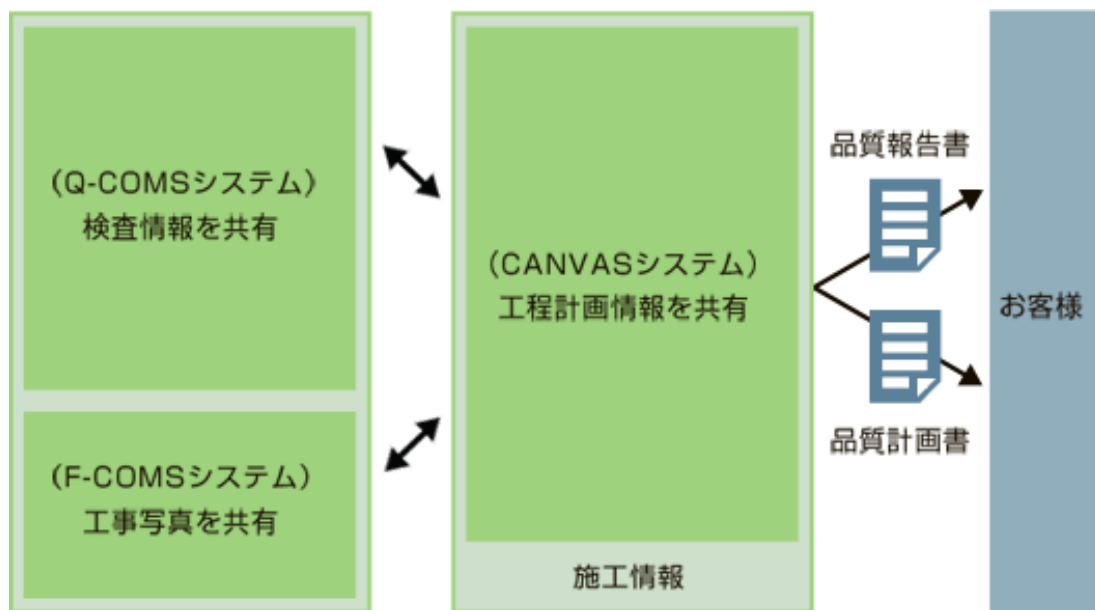
施工品質レベルを「見える化」

一棟一棟の施工品質管理と記録の管理・保存、内部統制を目的に、施工品質管理ツールとして「Q-COMS」「F-COMS」を導入しています。これは、施工現場の検査記録や施工管理報告などを、事業所情報系システム「CANVAS」で一元管理するもの。品質情報を写真と連動させて品質管理を「見える化」し、一層のレベル向上に取り組んでいます。また、入力されたデータをもとに検査データの集計・分析を行い、施工品質改善活動の指針となる資料として活用しています。

「アカウントビリティ」の徹底

建築業務時に行うべきお客様への説明が不十分であったために生じる不信感の防止を目的とした「アカウントビリティ（説明責任）実践支援システム」を策定。現場監督は、お客様に「CANVAS」で作成する「品質計画書」「品質報告書」などのツールを用いて、必要な段階で、必要な事項を確実に説明します。「品質計画書」には、工事担当者、現場管理体制、工事予定のほか、着工前にお客様に説明しておくべき連絡事項などを記載。「品質報告書」は、工事の進捗報告、各工程の検査結果、工事写真、竣工・引き渡し・入居に向けての連絡事項などを記載したものです。説明責任を確実に果たすことで、お客様に安心して着工を迎えていただき、また、入居までの準備を計画的に進めていただくことができます。

「全社施工品質管理システム」概要



品質向上

施工力強化に向けた現場合理化の推進

日本の建設業就業者は、3人に1人が55才以上であり、高齢化が進行しています。今後も高齢者の引退による職方の減少は続き、新規入職者の確保・育成と定着率向上が建設業界全体の課題となっています。積水ハウスでは、安定した施工力を確保して品質向上・お客様満足向上を実現する施策の一つとして、限られた工事力を最大限に活用するための現場合理化の取り組みを推進しています。

部材の複合・プレ加工推進と物流改善による現場施工効率向上

施工力増強を果たすためには、職方が気持ちよく効率的に仕事に取り組める環境づくりが不可欠です。施工現場の声を重視し、営業部門、技術開発部門、施工部門、生産部門、システム部門が連携して業務プロセスの効率化に取り組んでいます。職方の作業軽減と施工品質安定を目的に、プレファブリケーション（工場での部材の複合化・プレカット化・プレセット化）を大幅に推進。現場での加工削減は、省力化のみならず、粉塵などの近隣環境への配慮による現場美化にもつながっています。現場の要望・提案を受けて、迅速に対応し、順次メニューを増やしています。また、現場作業を効率化するための部材出荷の改善も進めています。必要な物を必要な時に届けることを目指した「ジャスト イン タイム物流」の推進、分納システムの再構築（配送の細分化）、賃貸住宅「シャーマゾン」施工現場への階別・エリア別搬入、世帯別表示と部材識別（製品ラベルの工夫）の推進などに取り組んでいます。

工場での部材複合化を推進



小屋裏界壁複合



母屋野地パネル（建方順供給）

品質向上

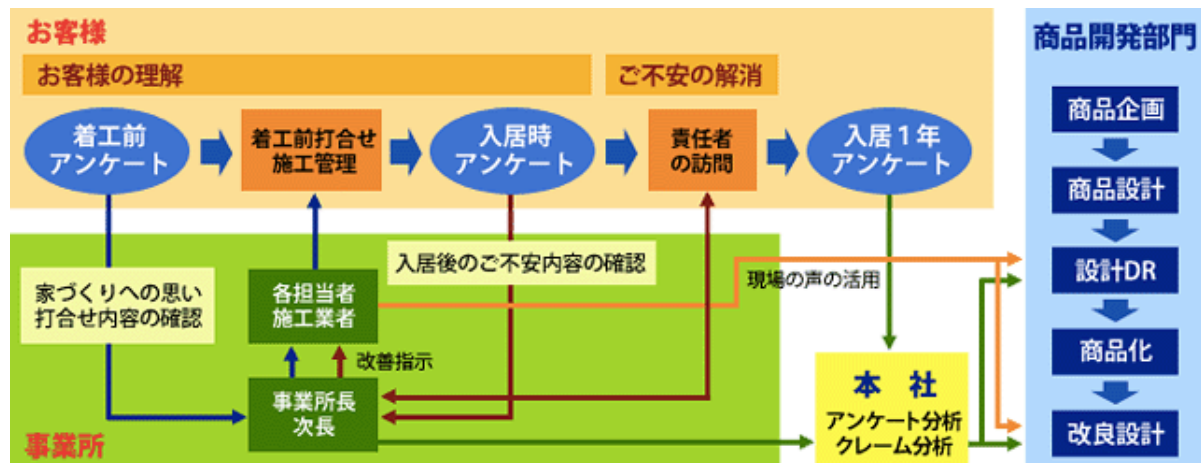
不具合の予防・再発防止体制構築と苦情情報のデータベース化による品質改善

住まいの品質は、入居して、そこに住み続けていく中で、その真価が問われるものです。積水ハウスでは、いつまでも安全・安心・快適に暮らしていただける住まいづくりを目指して、品質の改善・向上に努めています。

オーナー様の生の声を設計・仕様改良などに活用

さらなる品質改善・向上のために大切にしているのが、入居1年目に記入していただく「お客様アンケート」の内容、カスタマーズセンターやCS推進部などに寄せられるオーナー様の生の声です。オーナー様からの相談事や苦情は、真摯に受け止め、迅速に対応します。オーナー様の声をもとに、サービスや商品の見直しを行い、関係各部署にフィードバック。これまでもキッチンスペースの適切なサイズ設定や、室内建具の改良など、具体的な設計改善や仕様改良に活かしてきました。

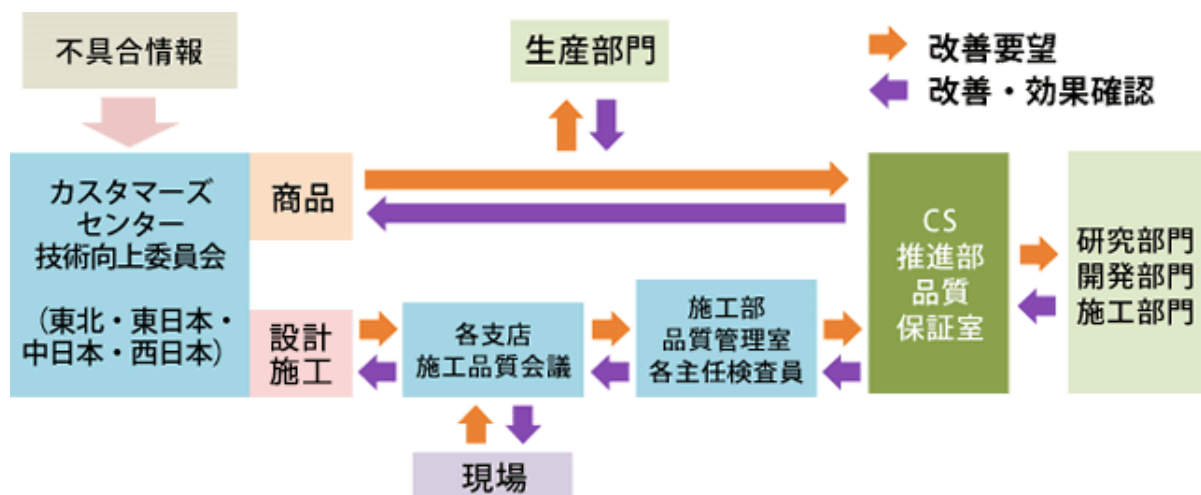
「お客様アンケート」による改善マネジメントシステム



積水ハウスのTQM* (お客様・現場からのフィードバックによる品質改善)

不具合案件については、早急に原因を調査し、設計・生産・施工・アフターサービスなど、総合的な観点から検討。改善要項は直ちに関係各部署にフィードバックし、対策を打ちます。必要に応じて、資材メーカーとも連携しながら改善策を検討しています。

* TQM: Total Quality Management (総合的品質管理)



品質向上

グループ会社と協力工事店による任意組織「積水ハウス会」

一棟の住宅を完成させるまでには、社内外の多くの人の力が必要です。お客様に安全・安心・健康・快適な高品質の住まいを提供するためには、住まいづくりにかかわる全員が志を同じくして取り組むことが重要です。

創業来、共存共栄を図ってきた「運命協同体」

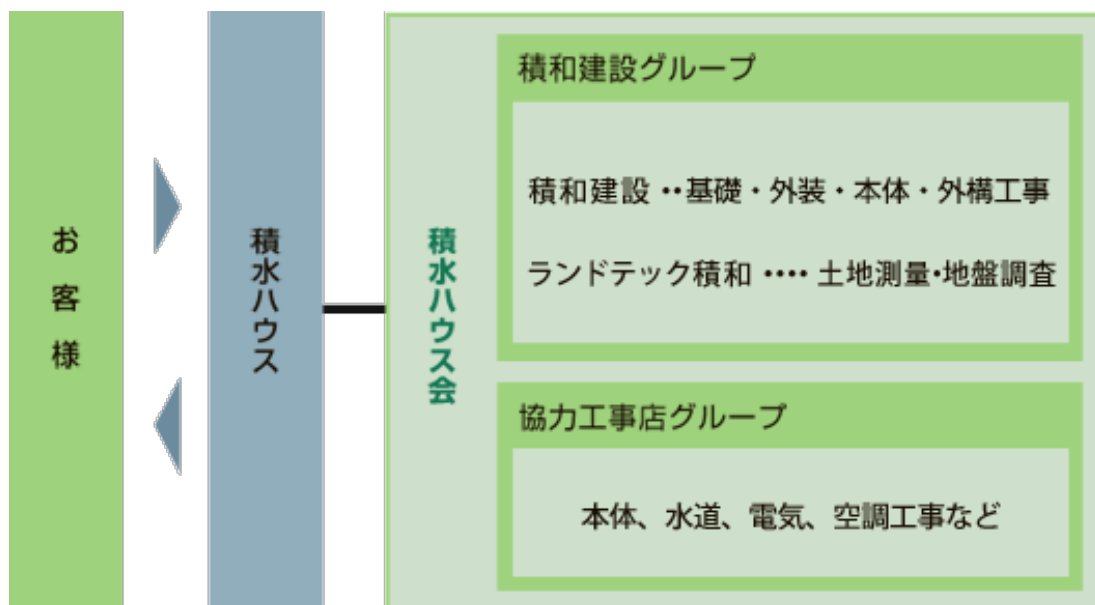
創業間もないころから「責任施工」を標榜してきた積水ハウスにとって、協力工事店の存在はかけがえのないものです。業界に先駆けて取り組んできた施工技術の開発・向上、ゼロエミッション、災害時の対応など、協力工事店との連携なくしては成し遂げることができなかつたといっても過言ではありません。元請け・下請けの関係ではなく、苦楽を共にする仲間・同志すなわち「運命協同体」として信頼関係をはぐくみ、常にそのきずなを大切にしてきました。

こうした活動のベースとなっているのが「積水ハウス会」です。「積水ハウス会」は、積水ハウスの施工に携わるグループ会社や協力工事店によって結成されている任意組織です。2014年2月1日現在、グループ会社の積和建設（住宅の施工）19社、ランドテック積和株式会社（土地測量・地盤調査）と、全国の協力工事店約7000社が加盟しています。

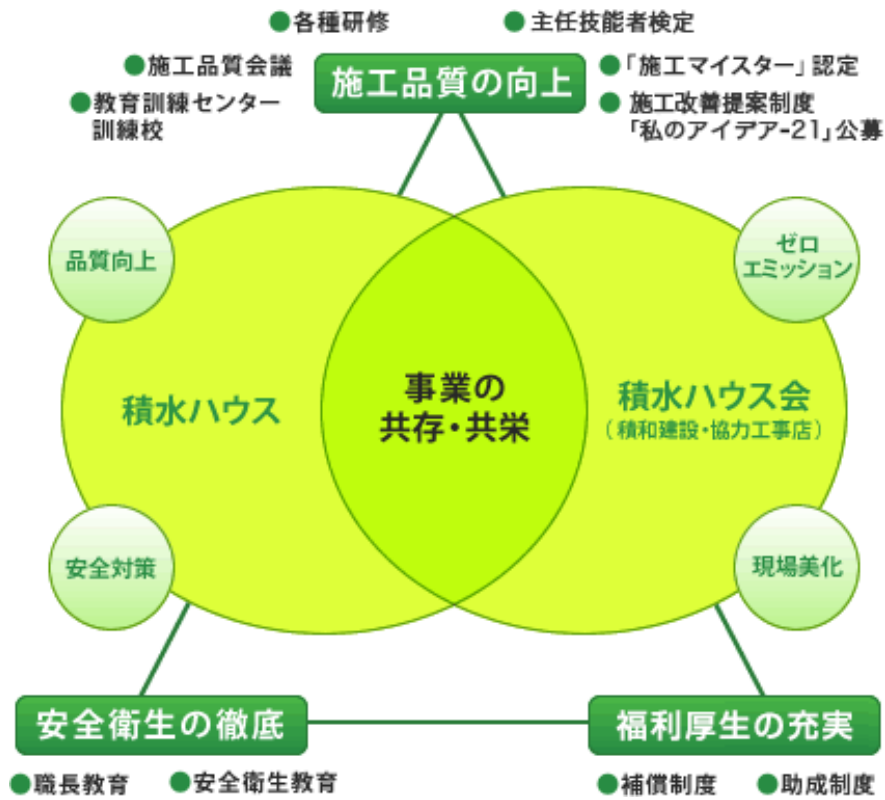
「積水ハウス会」では、それぞれの地域で積水ハウスの各事業所と協力し、施工品質の向上はもとより、オーナー様や近隣の皆様への対応、安全対策、現場美化、ゼロエミッション活動、人材の育成、労働環境の整備など、さまざまな取り組みを進めています。また、各施工現場や各協力工事店が抱えている課題を共有して解決策を検討する情報交換の場や、研修・勉強の場を設け、業務改善や技術向上に努めています。

これからも「積水ハウス会」とともに、お客様満足の実現に全力を尽くし、積水ハウスブランドの価値向上に取り組むことで、「運命協同体」として共存共栄を目指します。

■ 積水ハウスグループ独自の「責任施工」体制



■ お客様満足を実現する「運命協同体」としての取り組み



品質向上

厚生労働省認定「セキスイハウス主任技能者検定」

「セキスイハウス主任技能者検定」は、積水ハウスの施工技能に合致した内容の、国家検定に準ずる、積水ハウス施工業者による自主運営の技能を評価することを目的とした検定制度です。検定は年に1回行われ、2013年度は157人が合格しました。検定合格者は累計で1万4458人に上り、現場責任者（現場作業のリーダー）として、施工品質の向上に寄与しています。

積水ハウスの施工に必要な知識・技能習得を目指した独自の検定制度

「セキスイハウス主任技能者検定」とは「セキスイハウス協会」（積水ハウスの施工を担当する協力工事店の組織）が実施する自主検定制度です。労働者の技能レベルを公証する制度としては、国が行う「技能検定」制度があり、これには建築大工などの建築関連職種も多数含まれていますが、積水ハウスの基礎・外装・内装の施工に必要な技能は、国の検定では十分に評価できないのが実情でした。そこで、国の検定による評価が難しいのであれば、自分たちで自分たちの技能を正しく評価できる仕組みをつくらうということで、1983年にできたのが、この検定制度です。

その後、国（当時の労働省、現・厚生労働省）でも、事業主または事業主団体によって自主的に行われている検定のうち、労働者の技能の向上・振興上有益であり、国の検定に準じて取り扱うのが妥当と認められたものについて、大臣名で認定することになりました。「セキスイハウス主任技能者検定」は、その団体第1号として、1985年4月に認定を受けました。もちろん建設・住宅業界で初めてのことです。

「セキスイハウス主任技能者検定」の目的は、積水ハウスの基礎・外装・内装の施工に携わる技能者の技能を的確に評価・公証すること、検定を通じて品質向上に寄与することです。評価基準は、主任技能者にふさわしい人間性を兼ね備え、図面および仕様書などに基づく施工内容の詳細を理解し、規定通りの工事ができ、必要な専門知識と技能を有する作業員であって、円滑かつ確実な業務の遂行ができること。検定職種は「セキスイハウス基礎施工」「セキスイハウス外装施工」「セキスイハウス内装施工」の3職種です。受検者の業務により「B型」「SW型」「β型」の試験選択ができます。評価基準に達しているかどうかを判定する手段として、技能者の知識を評価する学科試験、技能者の技能を評価する実技試験の二つで評価します。学科試験と実技試験の両方に合格すると「セキスイハウス主任技能者」として認定され、認定証とヘルメットが与えられます。検定合格後、経験を積み重ね「施工マイスター」への道が続いています。



内装施工の実技試験。
複数の検定員が評価

品質向上

教育訓練センター・訓練校

積水ハウスでは、将来にわたって施工力を確保し、施工品質の維持・向上を図っていくため、人材の育成や次代を担う若い技能者への理念と技術の継承に力を入れています。その一環として、東日本教育訓練センター・訓練校（茨城県古河市）、西日本教育訓練センター・訓練校（山口市）を設け、技能者の養成に取り組んでいます。2013年度は、新卒者対象の訓練コースとして、外装組立技能者・施工管理者を育成する「普通課程」と、内装組立技能者を育成する「内装課程」を開講（訓練期間：2013年4月2日～2014年2月28日）。全国から普通課程31人、内装課程30人の計61人が訓練校に入校し、カリキュラムを修了しました。修了生の数は累計2294人に上ります。

2014年度は、新卒者対象の訓練コースとして「短期課程 躯体外装コース」と「短期課程 内装施工コース」（それぞれ約6カ月間）を開講します。「躯体外装コース」では、プレハブ建築に関する専門知識・技術を習得し、積水ハウスの各型式の基本的な建て方（建築組立作業）から検査までを学びます。「内装施工コース」では、内装組立技能者の養成を目的に、基本的な内装下地施工を習得します。



普通課程（躯体施工）
2階複合外壁施工（玉掛け）実習



短期課程（内装施工）
天井石膏ボード施工実習

匠の「技」と「心」を継承

東日本教育訓練センター・訓練校（茨城県知事認定）、西日本教育訓練センター・訓練校（山口県知事認定）は、積水ハウス株式会社が直接運営する認定職業能力開発校です。積水ハウスの施工現場に従事することを条件に、積和建設各社、積和不動産各社、協力工事店に採用された若者に、技術・技能をはじめ、社会人として必要な教養やマナーを身につける訓練を行い、第一線で活躍できる人材を育成することが目的です。積水ハウスの施工に必要な知識と技能だけでなく、積水ハウスの「心」を学ぶところが他の学校とは大きく異なる点です。お客様の満足を実現するためには、住まいづくりにかわる全員が共通の理念のもとで仕事をすることが重要であり、そのためには「技」だけでなく「心」を伝承していくことが必要と考えているからです。カリキュラムは、実際の施工現場を想定した実践的な内容となっています。豊富な知識と高い技術を有する社員や外部講師が指導にあたっています。修了生の多くは全国各地で技能工や施工管理者として活躍しています。若い力が現場に活力を与え、積水ハウスの工事能力の強化に貢献しています。

訓練校修了後も、東日本教育訓練センターと西日本教育訓練センターで実施している、さまざまな研修に参加し、継続して技術・技能向上に取り組むことができます。各センターでは、基礎研修、外装研修、内装研修、部位別研修など、多数のカリキュラムを用意。実務経験やレベルに応じて受講することができます。

① 基本的な技術と技能の習得

【躯体外装】

積水ハウスBシステム(軽量鉄骨)とシャーウッド(木造)およびβシステム(重量鉄骨)に関する建方工事を主に、基礎工事を含め基本的な技術知識や技能全般を学ぶ。

【内装施工】

積水ハウスの内装組立工事(床・天井・壁・間仕切り壁)の基本的な技術知識や技能全般を学ぶ。

② 安全と現場美化意識の習得

現場業務従事者として不可欠な安全と現場美化に関する知識を習得する。また、実習を通じて現場での危機回避訓練を徹底して行う。

③ 社会人としての素養取得

全寮制による共同生活を通じて、所属会社や出身地の枠を超えた人間関係をはぐくむとともに社会人・職業人としてのマナーを身につける。

④ 心身の鍛錬

規則正しい生活と厳しい実技訓練を体験し、毎日の筋力トレーニングにより、健全な肉体と強固な精神力を養う。

⑤ CS活動の基本行動習得

施工関係技術者・技能者と、お客様の満足向上との関連を理解し、意識付ける。

品質向上

施工マスター制度、積水ハウスリフォームマスター制度

施工現場における「匠」の顕彰

積水ハウスの施工現場における、全社の模範となる優れた技能者を顕彰する制度として「施工マスター制度」を設けています。2013年度「施工マスター」には、基礎68人、外装92人、大工154人の計314人(2012年度は計205人)が認定されました。

この制度は、施工現場における「匠」の顕彰により、職方の「技能」を評価し、次世代に継承することを目的として、2010年に創立50周年を記念して創設したものです。対象者は、基礎・外装・大工の技能工(主任技能者)で、おおむね15年以上の施工実績があり、技術・技能が優秀であるばかりでなく、後進の指導育成に秀でているなど、厳しい認定基準をクリアした方々です。

「施工マスター」認定者には認定証などが授与され、奨励金が支給されます。施工品質への貢献、高度な技能の伝承など、他の範となり活躍することで、すべての建築従事者のモチベーション向上、協力工事店との「運命協同体」意識の強化に資することが期待されています。



「施工マスター」認定者に授与されるワッペンとステッカー

リフォーム施工品質とオーナー様満足の向上を目指して

積水ハウスのオーナー様のリフォーム事業を担う積水ハウスリフォーム株式会社では「積水ハウスリフォームマスター制度」を設けています。2013年度は、新たに36人が認定され、2014年2月1日現在、計240人の「積水ハウスリフォームマスター」が全国で活躍しています。

2008年に創設したこの制度は、リフォーム事業に従事する協力会社の優秀な職方を「積水ハウスリフォームマスター」として認定・登録することにより、リフォーム工事現場の改善と施工品質の向上を推進し、オーナー様の信頼と満足の向上を図ることが目的です。技能だけでなくオーナー様の満足度、仕事量、施工現場におけるマナーや気配り、安全への配慮、管理能力、後進の指導育成力などを多面的に評価して認定しています。認定者には、認定証および認定マーク付きの名刺やヘルメットを授与しています。

マスター認定者が模範となることで、すべての職方の誇りと意欲を増進させ、これを目標に研鑽努力する仕組みが整いつつあります。今後はマスターの横の連携を強め、知識・技能の向上に必要な情報交換ができる取り組みを充実させていきます。



「積水ハウスリフォームマスター」
認定証



「積水ハウスリフォームマスター」
専用ヘルメット

品質向上

施工改善提案制度「私のアイデア-21」

施工改善提案制度「私のアイデア-21」は、施工に従事する方々の品質向上やお客様満足向上のための創意工夫を推奨し、支援する制度です。年に1度、積水ハウスの施工に携わる全国の技能工から、実際に行っている施工方法の改善などのアイデアを募集。提案内容により等級を決め、表彰および報奨金の授与を行っています。1988年に開始し、2013年で26回を数えます。2007年からはサステナブル社会の実現に向けた活動を表彰する等級「環境大賞」「環境賞」も設けています。

第26回(2013年)施工改善提案制度「私のアイデア-21」には、全国から1620件の提案が寄せられました。審査の結果、金賞1件、銀賞11件、銅賞30件が決定しました。金賞を受賞したのは、株式会社セイミヤ(千葉南支店の協力工事店)中村秀雄さん提案の「内壁枠取付け治具」です。

■ 金賞受賞「内壁枠取付け治具」

内壁枠を取り付ける際に、内壁枠端部の断熱材が取付け金具に引っ掛かることなく、スムーズに取り付けることができる治具。新断熱工法「ぐるりん断熱」採用により、内壁枠合わせ部の断熱材が大きくなったため、軸組に取り付ける際、非常に手間がかかっていました。断熱材が取付け金具と縦棧の間に挟まったり、タッカーが当たったりするため、脚立に上って上部を手で押しながら作業をしていました。この治具により、脚立を利用する必要もなくなり、簡単に取り付けることが可能になりました。作業効率と安全性の向上に大きく寄与しています。



施工現場における改善活動を推奨・支援

「最高の品質と技術」を提供するためには、施工に携わる全員が、それぞれの現場で法令や業務システムを遵守し、誠実に仕事に取り組むことが基本です。それだけでなく、一人ひとりが常に品質・精度向上や業務効率化を念頭に置いて問題意識を持ち続け、創意工夫と挑戦の精神をもって改善や新たな建築技術の創造に努めることが重要です。さらに、一つの現場から生まれたアイデアを全国で共有すれば、全体の施工品質向上、お客様満足向上につなげることができます。積水ハウスでは、グループ社員だけでなく、協力工事店の方々の提案を積極的に採用しながら、施工品質の向上に取り組んでいます。

施工改善提案制度「私のアイデア-21」を通じて、これまでに4万7278件もの提案があり、たくさんの新しい工具・機材や工法が生まれました。商品化されたもの、特許を取得したものもあります。受賞提案は施工ニュース「つちおと」などで紹介。また、社内ホームページに動画を掲載することで、優秀なアイデアの現場への周知、全国への水平展開を図っています。

■ 施工改善提案制度「私のアイデア-21」募集要項

対象者	施工現場で従事する、すべての社外協力者およびグループ（積水ハウス社員は、積和建設出向者に限る）
受理基準	①施工改善、現場環境改善、現場CSIに関係するもの ②問題点に対する解決策を具体的に示したもの ③自分で創意工夫したもの ④提案内容が明確なもの、内容が評価者に十分に伝わるもの ⑤アイデアのみも受理（ただし、全国審査では実施している提案のみ受け付け）
表彰等級	最優秀賞、金賞、銀賞、銅賞、（環境大賞、環境賞は場合により設定）、1級、2級、下級

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインの考え方

当社は、1960年の創立以来「いつもいまが快適」な住環境創造を目指す「生涯住宅思想」に基づき、時とともに変化する人の身体特性などを考慮した安全性と、誰にでも使いやすい住まいづくりを一貫して追求してまいりました。

2012年度には、住まいと暮らしの体験施設「納得工房」において実施している「納得工房体験型研修とSH-UDマスタープランナー制度によるUD(ユニバーサルデザイン)啓発活動」が、「IAUDアワード2012」(主催:国際ユニヴァーサルデザイン協議会)において“大賞/経済産業大臣賞”を受賞しました。

2013年度の取り組み:「IAUDアワード2013」で、「ドクターユニバーサルデザイン授業」が金賞を受賞

2013年度「IAUDアワード2013」(主催:一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会(IAUD)事務局:横浜市青葉区)において「ドクターユニバーサルデザイン授業～小学校での取り組み～」で“未来世代部門・金賞”を受賞しました。

「IAUDアワード2013」は、“一人でも多くの人が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰するものです。



【関連項目】

＞ [「国際ユニヴァーサルデザイン協議会」ホームページ](#) 

2013年度の取り組み:「IAUDアワード2013」で、「ドクターユニバーサルデザイン授業」が金賞を受賞

1975年、初の高齢者・身体障がい者配慮住宅を建設、1981年には日本初の「障がい者モデルハウス」建設にも参画しました。さらに、1990年には総合住宅研究所に「納得工房」を設置、さらなる研究を進め、こうした取り組みが評価され、1999年には国連の外郭団体より「ケアリング企業賞」を受賞しました。



1999年「ケアリング企業賞」受賞

これらの取り組みで培った実績と研究成果を生かし、2002年には顧客ごとに異なる要望に応えながらも「安全」で「使いやすい」デザインを実現するため、ユニバーサルデザインシステム「SH-UD(積水ハウス ユニバーサルデザイン)」という独自の基準を業界で初めて確立しました。そして、2002年の「積水ハウスユニバーサルデザイン宣言」以来、「モノづくり」「人づくり」「場づくり」の3つを柱に、住宅のユニバーサルデザイン化を推進するとともに、「人づくり」の柱として、「SH-UDマスタープランナー」と名付けた社内資格認定制度を設け、認定者を全国の支店に配置しています。

【関連項目】

＞ [スマート ユニバーサルデザイン](#) (p.329)
 ＞ [社内資格制度](#) (p.433)

ユニバーサルデザイン

「スマート ユニバーサルデザイン」

「スマート ユニバーサルデザイン」とは、従来のユニバーサルデザインの考え方の基本となる「安全・安心」「使いやすさ」に加え、触感や操作感などに訴える「心地よさ」まで追求した積水ハウス独自の住空間デザインの提案です。

当社は、1960年の創立以来“いつもいまが快適”な住環境創造を目指す「生涯住宅思想」に基づき、時とともに変化する人の身体特性などを考慮した安全性と、誰にでも使いやすい住まいづくりを一貫して追求してまいりました。そして、そこで培った実績と研究成果を生かし、2002年にはお客様ごとに異なる要望に応えながらも「安全」で「使いやすい」デザインを実現するため、「SH-UD（積水ハウス ユニバーサルデザイン）」という独自の基準を業界で初めて確立しました。「スマート ユニバーサルデザイン」は、当該システムに「心地よさ」を付加した新しいユニバーサルデザインの考え方です。



2012年は、「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」が、「第6回キッズデザイン賞」で審査委員長特別賞を受賞しました。また、当社の永年のユニバーサルデザインへの取り組みが評価され、「IAUDアワード 2012」において「納得工房体験型研修とSH-UDマスタープランナー制度によるUD啓発活動」が「大賞／経済産業大臣賞」を受賞いたしました。

「スマート ユニバーサルデザイン」のコンセプト

家族の年齢や体格、体力の違いなど、長い生涯の中で家族それぞれの身体機能の変化に合わせ、将来にわたって安全で暮らしやすい住まいを提供することは、今や住宅の提案においては基本であるといえます。

積水ハウスの「スマート ユニバーサルデザイン」はこの基本的な考え方に加え、何気なく触れたときの感覚や日常のちょっとした操作性、ふと目にしたときの意匠の美しさなど、「からだやこころの素直な感覚＝心地よさ」を大切にしたいデザインの工夫を提案します。

「安全・安心」+「使いやすさ」+「心地よさ」の3つの視点から住宅の部材や設計手法の開発に取り組み、誰にとっても快適でいつまでも愛着を持って暮らし続けることのできる住まいづくりを追求していきます。

■「スマート ユニバーサルデザイン」が大切にしたい「3つの視点」



トイレ柵手すり ～身近な部分にこそ、美しいデザインを～

L字手すりを進化させた斜め手すりの形状は立ち座りのしやすさを人間工学的に研究した結果です。使いやすさと同時にデザイン性を高めています。



トイレ柵手すり

LED階段照明 ～人の動きに寄り添う明かり～

階段の段板の裏側にライン状のLED照明を埋め込みました。手すりに埋め込まれたタッチスイッチに触れると、階段の一段ずつが浮かび上がるような照明計画で、階段を上り下りする人を優しく導く、人の動きに寄り添う明かりです。



LED階段照明

ユニットバス ～お湯に包み込まれるような心地よさ～

安全に出入りでき、お湯に包み込まれるような入浴感を得られる浴槽や、浴槽への移動もスムーズに行えるよう配慮したベンチスタイル、さらにお手入れのしやすい洗い場の床材や排水口など、基本性能を充実させるとともに、ライフスタイルに合わせて選べる入浴スタイルをご用意しました。



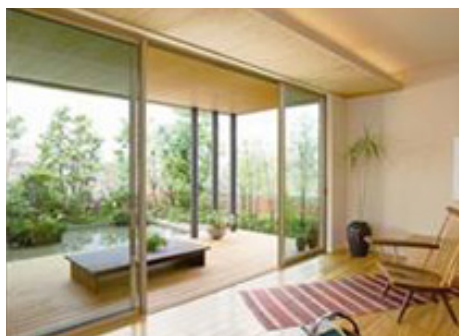
浴槽デザイン



ベンチスタイル

フルフラットサッシ&バルコニー ～日常の風景が美しくなる～

1階や2階バルコニーのサッシ枠の床段差をなくすことによって、出入りがスムーズにできます。同時に空間の広がりを感じることができ、室内からの眺めや庭との一体感も高めます。



フルフラットサッシ



フルフラットバルコニー

2010年	グッドデザイン賞受賞（主催：財団法人 日本産業デザイン振興会）
2011年	第5回キッズデザイン賞受賞  （主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）
2012年	第6回キッズデザイン賞受賞  （主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）
2012年	「IAUDアワード2012」において“大賞／経済産業大臣賞”を受賞
2013年	「IAUDアワード2013」において“金賞／銀賞”を受賞

【関連項目】

.....
> [ユニバーサルデザイン](#) (p.328)

ユニバーサルデザイン

子どものためのユニバーサルデザイン「コドモイドコロ」

2007年8月、子ども住環境に関する長年の生活研究を基盤に、子どもの健やかな成長に目を向けた住まいづくり「キッズでざいん」を発表。子どもの成長・発達段階に合わせて空間の使い方を柔軟に変化させ、将来にわたって成長を支え続けるとともに、保護一辺倒ではなく経験による成長を考えた安全・安心を配慮することで、子どもたちが豊かな経験を重ねながら自ら成長していける「子育て」の住まいを実現してきました。2012年5月からは、子どもの生きる力を育む「居どころづくり」の充実と、安全・安心と自主性を考えた「子どものためのユニバーサルデザイン」の考え方をさらに深めてリニューアルし、新たに「コドモイドコロ」とネーミングして子育て世代に提案しています。

2012年10月には、「コドモイドコロ」をテーマにした実験的コンセプトモデル空間を、大阪で開催された「LIVING & DESIGN 2012」と、同月末から東京で開催された「TOKYO DESIGNERS WEEK 2012」に出展し、広く一般の方々に体験していただきました。

この展示において来場者によるアンケート投票を行い、来場者の意見を取り入れた空間を多摩ニュータウン東山において「コドモ里山ラボ 東京森都心」として実現し、2013年5月より一般公開を開始、モデル棟を残して販売も開始しました。

「コドモイドコロ」の考え方は、「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」として、第6回キッズデザイン賞 審査委員長特別賞（主催：NPO法人 キッズデザイン協議会）を受賞しています。2013年度は、「コドモ里山ラボ 東京森都心」での優秀賞 経済産業大臣賞獲得をはじめ、10項目の商品・サービスが、第7回「キッズデザイン賞」を受賞しました。

7年連続で「キッズデザイン賞」を受賞

2013年度は、NPO法人 キッズデザイン協議会が主催する第7回「キッズデザイン賞」において、子どもの安全や成長に配慮した積水ハウスの取り組みのうち10項目が「キッズデザイン賞」を受賞しました。

<子ども視点の安全安心デザイン> 学び・理解力部門

■ 優秀賞 経済産業大臣賞

- キッズデザイン体験施設を中心とした街づくり
「コドモ里山ラボ 東京森都心」



■ 奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

- 小児がん治療中の子どもたちとその家族のための夢の治療環境「チャイルド・ケモ・ハウス」



復興支援デザイン部門

■ 奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞

- 東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれるまちを目指す「まちみどりプロジェクト」



<子ども視点の安全安心デザイン> 子ども部門

- 安全・安心で、経済性も高く、環境に配慮したグラウンド用ライン材「プラタマパウダー」

<子どもの未来デザイン> 創造性・感性部門

- 子どもの感性や創造性を育む分譲マンション「グランドメゾン狛江」

<子どもの未来デザイン> 学び・理解力部門

- 「5本の樹」計画を活用した全国での自然教育活動
- 子どもたちのふるさとになる街づくり「グリーンヒルズ湯の山」

<子どもの産み育て支援デザイン> 個人・家庭部門

- キッズ&ベビーデザイン賃貸住宅「シャーマゾン」
- 親子いっしょの楽しみがもっと広がる生活提案「モビリティライフ」

<未来を担う消費者デザイン部門>

- UDを見る確かな目を育む「ドクターユニバーサルデザイン授業 ～小学校での取り組み～」

「IAUDアワード2013」で金賞・銀賞 受賞

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会が主催する、「IAUDアワード2013」において、積水ハウスのユニバーサルデザインに関する取り組みのうち2項目が、未来世代部門で、金賞・銀賞を受賞しました。

金賞の「ドクターユニバーサルデザイン授業～小学校での取り組み～」は、子どもたちのUDを見る確かな目「UDリテラシー」を養い、将来自分の意思でユニバーサルデザインを取り入れることのできる子どもを育てるための取り組みで、審査員からも「次世代教育を重視しているこの取り組みがより重要で、今後大きな可能性を秘めている」とのコメントをいただきました。



ドクターユニバーサルデザイン授業
座学実施の様子

また、銀賞を受賞した「子どものためのスマートユニバーサルデザイン～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～」は、住まいづくりの際に、親子でユニバーサルデザインを学ぶことができるように、安全を確保しつつ自主性を促す“子育て”視点に基づいた「子どものためのユニバーサルデザイン」を学習・体感できるよう、身近なヒヤリハットに気づくきっかけとなるチェックカードや親子で学習できるポップを住宅展示場に導入しています。



おうちのキッズUDチェックカード

生きる力を育む住まい「コドモイドコロ」

子どもは「感性・身体・知性・社会性」の4つの力を発達させて大人になっていきます。それぞれの力を、発達に適した時期にしっかりと伸ばしてあげることが大切です。そのために、住まいにできる最も重要なことは、こどものための「居どころ」づくりです。住まいの中に、子どものための居どころを発達に合わせて考えてあげることで、子どもは安心して暮らし、生きていくために必要な力を身につけていきます。子どもの生きる力を育む住まい、それが積水ハウスのキッズでざいん「コドモイドコロ」です。

「みんなといっしょコドモイドコロ」

家族の集まるリビングは、生活の音あふれるにぎやかな空間。その中に、子どものための「イドコロ」をつくってあげることで、子どもは安心して遊び、暮らしていくための多くのことを学びます。

ピットリビング

「ピットリビング」は、床を一段低くすることで、家族が自然に集まるスペースを提案しています。くぼみ空間をつくることで心理的な落ち着きの効果が得られ、家族だんらんの場合、くつろぎの場が生まれます。



ステージリビング

「ステージリビング」で床の高さを変えると、同じ部屋でも少し独立した雰囲気生まれ、子どもが自由に過ごしながらもお互いの気配を感じることができる空間をつくり出します。子どもの発達時期に合わせて多様な空間の使い方を楽しむことができます。

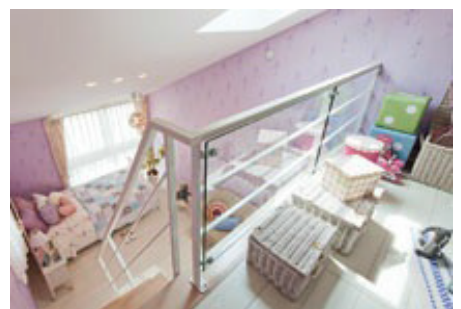


「じぶんだけのコドモイドコロ」

お気に入りのものや自分でコーディネートしたインテリアに囲まれた空間は、部屋への愛着が生まれ知性、社会性を育みます。

<ロフト> 上に広がるわくわく秘密基地

高いところから見下ろしたり、隠れたり、ロフトは子どもたちのいろいろな遊びを生み出してくれる小さな小屋裏空間です。階段上り下りは、遊びのワクワク感を高めてくれるとともに、身体の発達を自然に促してくれます。



<間仕きる一む> 成長に合わせて変化してくれる空間

可動間仕切収納「ヴァリエス」で子どもの希望や成長に合わせて、一つの空間を閉じたり、開いたり自由にレイアウトすることができます。



「スマートユニバーサルデザイン」アイテムのラインナップ

子どもにとって住まいは絶好の遊び場。段差から飛び降りたり、部屋を走り回ったり、身体力を発達させています。知識や注意力が未熟なため、危険を察知しにくいのが子ども。「小さい」「弱い」「わからない」子どもの、「あ、危ない！」を防止し、安心して成長できる「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」を取り入れた住まいづくりを提案しています。

■ 姿勢を保持しやすい

幼い子どもはトイレの姿勢が不安定。手が届くところに手すりがあれば、つかまることができ姿勢が安定します。



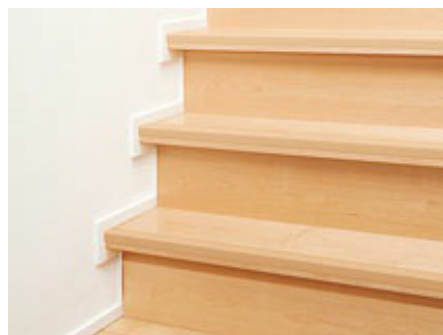
■ ケガしにくい

ドアを開ける時には、ストッパーで指はさみを防止。ソフトクローズ機構で、勢いよくドアを閉めても、スピードが吸収され、指はさみを防止します。



■ 転びにくい

階段の先端部に柔らかくてすべりにくい素材を使用。万が一、転んでしまっても、大けがをしにくい工夫



【関連項目】

- > [キッズデザイン協議会 \(p.382\)](#)
- > [「キッズでざいん コドモイドコロ」ホームページ](#) 

生活サポート

カスタマーズセンター

積水ハウスでは、住宅をお引き渡し後のオーナー様とのお付き合いを何よりも大切にしています。「いつもいまが快適」に住み続けていただくため、暮らしの中で生まれる、さまざまな相談や要望に迅速かつ的確に応え、きめ細かいアフターサービスを提供する体制を徹底しています。

アフターサービスの窓口として、2014年2月1日現在、全国に100拠点（30事業所）の「カスタマーズセンター」を設置。全社員の約1割もの人員をカスタマーズセンターの専任スタッフに充て、生涯を通じて、オーナー様の住まいと暮らしをサポートし続けています。

さらに、地震や台風などの自然災害発生時には、緊急体制を組み、積水ハウスグループの総力を挙げてオーナー様の支援および復旧・復興活動にあたっています。

【関連項目】

- > [「生活サポート体制」ホームページ](#) 
- > [「カスタマーズセンター」ホームページ](#) 

生涯にわたって住まいを見守り続ける、オーナー様の心強いパートナーとして

iPadを活用し、よりきめ細かなサポート体制を実現

2013年5月、カスタマーズセンター専任担当者へiPadを支給。この活用により、お客様サポートを強化しました。iPadは、アフターサービスの現場でお客様にビジュアルでわかりやすく説明するサポートツールとして活躍。事務処理作業が軽減したため、お客様対応の時間が増え、より一層充実したサポート業務が可能となりました。また、担当者の行動予定が組織内で共有され、お客様からの依頼への対応がさらに迅速化。災害発生時には、お客様の安否確認訪問や建物被害状況の把握にも活用し、速やかな災害復旧対応につなげます。

継続的な取り組み

まず、お引き渡し後3カ月時に、住み始めてわかった疑問や問題点のチェックに伺います。12カ月時には、四季を通じて住んでみて生じた疑問や問題点をチェック。24カ月時には、さまざまな不具合をチェックします。さらに、お引き渡し後10年目には、構造躯体や防水などの点検を実施しています。また、オーナー様の希望に応じて、5年目、15年目の点検も実施しています。それぞれの点検では、住まいの外部・内部をくまなくチェック。屋根・壁・外回りの排水などの見えにくい部分も必要に応じて点検・記録し、手直しや補修をしています。



専任スタッフが住まいの外部・内部を入念にチェック

定期点検時だけでなく、急な故障や不具合など日常の修理・メンテナンスにも迅速かつ的確に対応するため、邸別に建物情報の管理体制を整えています。オーナー様の住まいに関する情報をカスタマーズセンターで保存。補修や増改築の際には、そのデータを参照することで、迅速な補修個所の確認および必要部材の手配が可能となっています。

年月を重ねると、加齢や家族構成の変化などにより、ライフスタイルも変わっていきます。カスタマーズセンターでは、積水ハウスリフォーム株式会社と連携し、建物の状況や住まい方などを踏まえてオーナー様のニーズに応じた最適な提案を実施。増改築や性能向上のためのリフォームもサポートしています。

2013年の主な取り組み

2013年はオーナー様対応のスピード化のため、アフターサービス社員（約1000人）にi-Padを社給しました。業務効率の向上が図られたのと同時に、オーナー様宅訪問時のタイムリーな情報提供が可能となりました。

さらにオーナー様へのより良いサービスメニューを構築するため、Change Action Projectと称して、次の4つのテーマに取り組んでいます。

- ①「LOHAS TIMES」⇒お引き渡しから2年点検まで季節や月毎にタイムリーな情報誌を持参し、不明点などの質問に答える機会をアフターサービス社員自らが作り出す取り組み
- ②「アクション 30」⇒お客様からの修理や問い合わせの入電後、30分以内にコールバックと初期対応をしていこうという取り組み
- ③「プラスワンサービス」⇒訪問時に当初のご依頼事項に加え、建付けのチェック、窓の結露対策や様々な部位のお手入れ方法のアドバイスなどアフターサービス社員がそれぞれ考えたプラスαのサービスに取り組んでいます
- ④「安心電話」⇒地震・台風・竜巻などの自然災害時に、地域限定で安否確認とお困りごとはないかお電話を当社側から差し上げる取り組みを始めています



生活サポート

カスタマーズセンター休日受付センター

定休日でも緊急の依頼に即日対応できる体制を確立

2013年度の主な取り組み

「カスタマーズセンター休日受付センター」では、カスタマーズセンターと積水ハウスリフォーム株式会社の定休日（火・水曜日、祝日）※に、オーナー様からの電話を代わって受け付けています。

2013年は多数の台風の上陸、爆弾低気圧、竜巻の発生など、自然災害の多い年でした。これらの悪天候時のご依頼を各カスタマーズセンターおよび積水ハウスリフォーム株式会社と連携し、オーナー様への対応にあたりました。

2013年2月からはオーナー様への対応向上のため「サンクスカード」を発行しています。「サンクスカード」とは、休日受付センターから、迅速な対応をしたカスタマーズセンター担当者や積水ハウスリフォーム株式会社の担当者への感謝のメッセージをカードにして伝えるものです。「サンクスカード」の利用には、より良いサービスをオーナー様に提供するためのツールであることはもちろん、グループ内の連携をさらに強固なものにしていこうという意味合いも込められています。

その他、サービスのさらなる向上のため、緊急連絡先の再整備、知識アップのための業務研修など、より一層の対応力強化に努めています。



サンクスカードの一例

※ ただし、1月1～3日、8月13～15日、12月31日は「カスタマーズセンター休日受付センター」も定休日。

カスタマーズセンター休日受付センターとは

オーナー様からの相談や設備機器の急な故障などの入電は、1日当たり全国計1000～2000件寄せられます。そこで、定休日でもオーナー様からの相談や緊急の修理依頼に対応できるよう、2004年4月、本社のCS推進部内に開設しました。

オーナー様が定休日に全国の各カスタマーズセンターまたは積水ハウスリフォーム株式会社の各営業所へ電話をかけると、自動転送され、休日受付センターにつながります。緊急を要する用件については、休日受付センターの担当者が即時対応・手配します。その他の用件については、休み明けにカスタマーズセンターまたは積水ハウスリフォーム株式会社の担当者に引き継ぎます。この体制は、これまでに戸建住宅やシャーマゾンを建築いただいた約97万件のオーナー様について、住まいに関するデータを本社で一括管理するシステムの構築により可能となりました。

定休日にも全国すべてのオーナー様にスピーディーな対応をできるようになり、喜んでいただいています。また、カスタマーズセンターと積水ハウスリフォーム株式会社の社員が定休日に安心して休めるようになり、ES向上にもつながっています。

継続的な取り組み

休日受付センターでは、電話による顔が見えない声だけの対応となるため、スタッフの教育には特に力を入れています。新人のスタッフは、まず導入研修を受講し、電話対応と住まい全般にわたる基礎知識を習得します。続くOJT研修では、マンツーマンの指導により対応訓練を重ねます。さらに、高度な実務能力を身につけるためのフォロー研修も実施。電話対応の「質の向上」を図っています。

また、オーナー様からの相談内容や要望はデータベース化するとともに、情報を細かく分析して関係各所にフィードバックします。支店や工場、協力業者とも連携して、部材・設備機器の改善、仕様・設計の改善、施工品質の改善などに役立て、CSの向上につなげています。



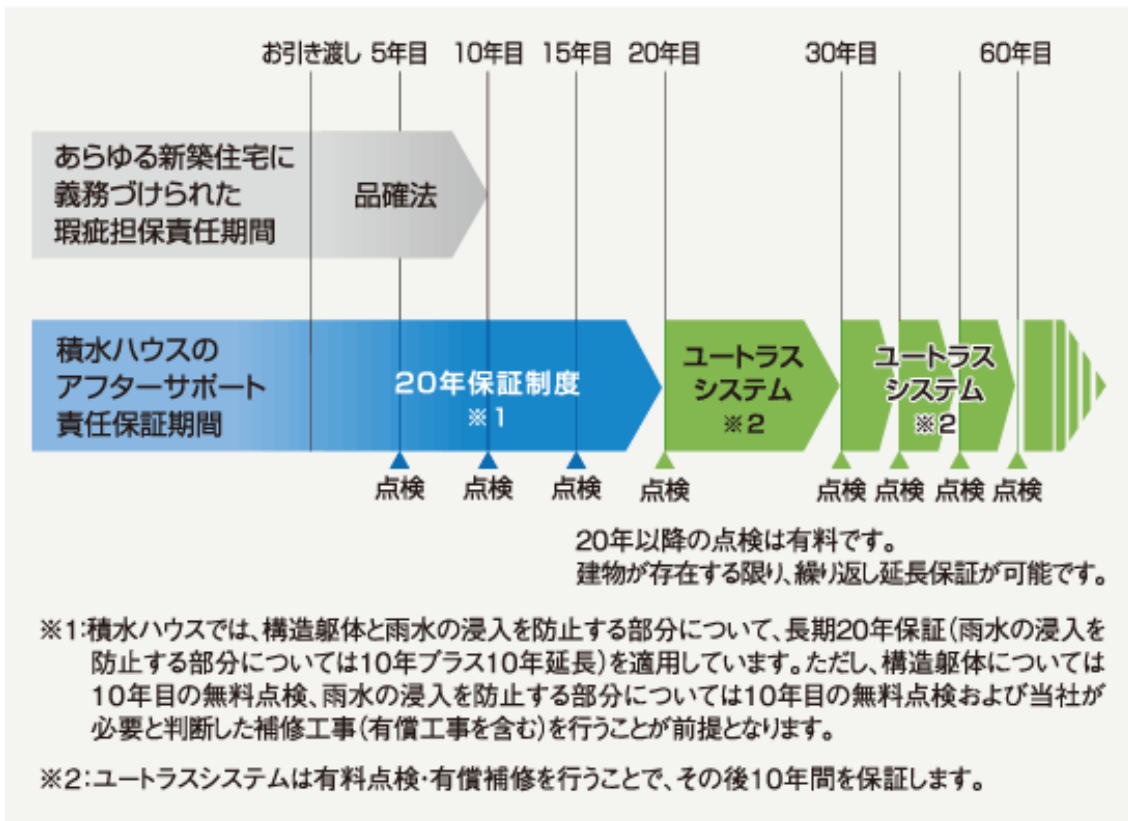
定休日にオーナー様からの相談や緊急の修理依頼に対応する「カスタマーズセンター休日受付センター」

長期品質保証制度

「20年保証制度」と「ユートラスシステム」

積水ハウスでは、長期にわたり住み継いでいただくための保証制度を充実させています。建物のお引き渡し時には、保証書をお渡ししています。これは構造躯体の20年保証※1をはじめ、各部位について期間内の保証を約束するものです。アフターサービスの責任保証期間終了後には、独自の「ユートラスシステム※2」で、さらに10年ごとの再保証を継続することができます。同システムの創設は、1999年。住宅の長寿命化が国の施策となり「長期優良住宅の普及の促進に関する法律（長期優良住宅法）」が施行される約10年前から、こうした独自の制度で長期品質保証を行ってきました。

オーナー様が長期間にわたって安全・安心・快適に住み続けられるように住まいの長寿命化を進め、社会ストックとしての住宅の価値を高めることで、持続可能な社会の実現に貢献しています。



これまでの取り組み

1982年4月	構造躯体と防水性能について10年保証開始
1999年10月	「ユートラスシステム」創設
2000年4月	構造躯体と雨水の浸入を防止する部分について20年保証開始（「住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）」で義務化された10年保証に、さらに10年を加えた独自の長期保証制度）

「コンサルティング・ハウジング」

「コンサルティング・ハウジング」を担う人材の育成

「コンサルティング・ハウジング」は、積水ハウスが創業以来、大切にしてきた住まいづくりの原点です。住まいは本来、気候風土・地域特性・敷地条件・家族構成・ライフスタイル・ライフステージなど、それぞれ異なる状況のもとに一邸一邸創造されるべきものです。積水ハウスでは、それぞれに異なる事情と、お客様一人ひとりの思いを受け止め、独自の構法や生産システム、ハード・ソフト両面にわたって細やかに配慮した提案によって、最大の満足を提供する「邸別自由設計」の住まいづくりに一貫してこだわり続けてきました。限られたプランから選ぶのではなく、出会いから設計・生産・施工・アフターサポートまで、各プロセスを充実させたお客様視点の住まいづくりを「コンサルティング・ハウジング」により実践しています。

営業社員のスキルアップ

お客様の多種多様な要望に応え、心から満足いただける住まいづくりを実践するためには、社員のコンサルティング力向上が不可欠です。中でも、お客様の窓口として「コンサルティング・ハウジング」を担う営業社員のスキルアップは重要です。

2013年2月には「新しい住まい価値提案(ZEH編)」勉強会を開催。「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)」の基礎知識や成功事例など、お客様への提案に役立つポイントを学びました。また、社内ホームページに「iPad活用サイト」を開設。営業社員向けに支給されているiPadの操作や、順次追加されるオリジナルの社内専用アプリなどについて紹介。出会いから初期折衝、ニーズ調査、プラン提案、契約後のサポートまで、スピーディーな提案、動画や音声を駆使したわかりやすいプレゼンテーションを実践するための情報を提供しています。

2012年から継続して「生活提案力の向上」についても重要なテーマとして取り組んでいます。トーク・ヒアリング・プレゼンテーションのスキルを磨き、お客様のライフスタイルやライフステージに合わせた提案を行う力を身につけることが狙いです。社内ホームページに各種トレーニングツールやトーク集・ビジュアル集、各地の取り組み事例などの資料・動画を掲載し、個々の社員の能力向上と組織対応力の強化による生活提案力向上を推進しています。また、社内ホームページの「生活提案情報サイト」では「ライフステージの変化と家族の特徴」「世代別特徴」「ライフステージ別情報」「趣味・嗜好・こだわり別情報」「部屋別情報」「プレゼン用データ」などの情報を紹介。随時、情報を更新・追加してコンテンツの充実を図っています。



iPadを活用して「スローリビング」をお客様にわかりやすく説明。画面をタップすると動画が流れます

展示場接客担当者のスキルアップ

展示場は、お客様との大切な出会いの場の一つです。展示場で接客を担当する社員は、お客様の積水ハウスに対する第一印象を左右する重要な役割を担っています。お客様をお迎えする環境を整え、最高のおもてなしで、気持ちよく見学いただくために、出会いの舞台づくりのスキルやコミュニケーション力を養っています。

2013年11月、第6回「展示場接客担当者 全国リーダー委員会」を開催。全国から集まった計27人の展示場接客担当者が一堂に会しました。営業本部の枠を超えた情報共有により、展示場接客担当者のネットワークを構築し、各営業本部における勉強会の活性化と社員のモチベーション向上につなげることが目的です。優績展示場接客担当者が個人・店・営業本部の取り組みを発表。成功事例の共有と検証を行い、グループ討議を通して今後の課題や目標を明確にしました。また、iPadの活用を推進するため、先行導入した営業本部から活用事例が紹介されました。

このほか営業本部や支店ごとに商品・技術の知識習得や接客に関する研修・勉強会、委員会・分科会活動などを定期的

に実施しています。また、社内ホームページで展示場のしつらいの工夫、おもてなしの工夫、お客様とのコミュニケーションツールやトーク集の実例、成功事例などを紹介。全国の社員がイントラネットを通じて情報交換を行い、切磋琢磨しています。

チーフアーキテクト道場

お客様に満足いただける住まいづくりを行うためには、多種多様な要望や多くの法規制、さまざまな敷地条件に対応できる高い設計提案能力が求められます。優秀な設計社員を養成するために「チーフアーキテクト」の認定を行っています。2013年度は、49人が新規認定、16人が更新認定されました。

チーフアーキテクトおよびチーフアーキテクト直前の設計上級研修受講修了者の技術力向上のために実施している研修「チーフアーキテクト道場」には、前期と後期に分けて全チーフアーキテクトが参加します。事業分野に対応した設計力および柔軟に対応できる応用力を高めることが目的です。2013年度前期は、11月20～21日、株式会社八島建築設計事務所の八島正年氏、八島夕子氏を講師に迎えて実施しました。



見学会では八島正年氏、八島夕子氏からご案内・ご指導をいただきました

インテリア道場

インテリアコーディネーターを対象にした社内コンペ「インテリア道場」を実施しています。2013年度 第8回「インテリア道場」は、11月11日に東日本会場、11月14日に西日本会場で、計218人が参加して開催されました。両会場共に事前審査で選ばれた入賞者各10人がプレゼンテーションを行い、最優秀賞・優秀賞・講師特別賞・入賞などが選定されました。東日本会場では「モダンリビング」編集長の下田結花氏を、西日本会場ではインテリアアーキテクトのアシハラヒロコ氏を講師に招き、講評・講演をいただきました。インテリア提案力の強化を図るとともに、技能の研さん、社員同士の交流によるモチベーションアップの機会となっています。

エクステリアコンペ

外構・造園に対する社員の意欲と技術の向上を図ることを目的に「エクステリアコンペ」を実施しています。2013年度 第14回「エクステリアコンペ」には計546作品の応募があり、17作品が入賞しました。

コンペの対象者は、積水ハウスおよび積和建設の社員。「グランドデザイン(外構計画)」にストーリーがあり、計画に必然性が感じられる。デザインに対して、新しさや独自性が感じられる。わかりやすく、説得力のあるプレゼンテーション(表現)である。お客様の要望やその他の条件に立ち向かい、創意工夫で解決し、満足を得られている。社内の人材育成になるプロセスが組まれている。建物プランや外観との関係がよく練られ、調和している。場所性・地域性を考慮している。「コストパフォーマンスが良い」など、多面的に審査し、入賞作品を決定します。さまざまな地域・世代の社員が競い、交流することで、人的ネットワークの形成にもつながっています。さらに、コンペ入賞作品をまとめ、設計施工・提案の参考資料として活用することにより、エクステリアレベルの向上を図っています。



表彰式の翌日、入賞者研修を実施

「コンサルティング・ハウジング」

体験型学習施設を通じた「コンサルティング・ハウジング」

積水ハウスでは「コンサルティング・ハウジング」をより充実したものとするため、住まいづくりのプロセスを大切にしています。その一つが体験型学習施設の活用。机上の打ち合わせだけでなく、実際に体験・体感していただきながら、疑問や不安を解消し、納得した上で住まいづくりを進めていただくためのものです。

住まいづくり体験ミュージアム「住まいの夢工場」

「住まいの夢工場」は、一般の展示場とは違い、構造の実大モデルや多彩な実験装置などを通して、住まいの強さや快適性などを楽しみながら確認できる体験型学習施設です。1997年に関東工場内にオープンしたのを皮切りに、現在は東北・関東・静岡・北信越・関西・山口の計6カ所に設置。定期的にバス見学会などを開催し、多くのお客様でにぎわっています。2013年度は、年間9万3116人が見学に訪れました。

「住まいの夢工場」では、実物の壁や構造に大きな力を加えたり、自分で組み立てを体験したりして、住まいづくりにおいて大切な「安全性」や「快適性」を確かめていただけます。耐震・耐火・遮熱・断熱・防音・防犯・防災などの基本性能はもちろん、キッチンの広さ、収納の配置、照明の工夫など、空間や使い勝手も実際に見て、聞いて、触れて、確認できます。常に最新の技術を紹介できるよう、展示内容を随時見直し、増設やリニューアルを重ねています。

空気環境配慮仕様「エアキス」の体験コーナーや、省エネルギーと創エネルギーで生活時のエネルギー収支ゼロを目指すネット・ゼロ・エネルギー・ハウスを先取りした「グリーンファースト ゼロ」、3電池連動制御のスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」関連の展示も充実させています。燃料電池と太陽電池による創エネルギー、蓄電池による蓄エネルギー、さらにこれら3電池を統合的に制御するHEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)の仕組みをわかりやすく紹介。東日本大震災以来、電力会社から供給される電気でできるだけ頼らない暮らしを目指す動きが広がる中、快適な生活をしなが、家計にも環境にも優しく、万一の場合のエネルギー確保を実現する住まいの技術が、来場者の高い関心を集めています。

同様の体験施設「住まいの家学館」も東京ほか各地に展開しています。



空気環境配慮仕様「エアキス」の部屋と一般的なF☆☆☆☆建材を使った部屋を比較体験



快適に生活しながらエネルギー収支ゼロの暮らしを実現する「グリーンファースト ゼロ」の技術をわかりやすく紹介



オリジナル制震システム「シーカス」の性能を実物で確認。さまざまな実験や体験を通して楽しみながら学べます

【関連項目】

- > [「住まいの夢工場」ホームページ](#) 
- > [「住まいの家学館 東京」ホームページ](#) 

> [「住まいの家学館 神奈川」ホームページ](#) 

> [「住まいの家学館 高知」ホームページ](#) 

住まい手とつくり手が共に理想の住まいを追い求める場「納得工房」

「納得工房」は、住宅業界初の体験型研究施設として1990年に「総合住宅研究所」内にオープンしました。2013年度は、年間3万2854人が来館しました。

自分にふさわしい住まいを「知る→理解する→納得する」というプロセスで、立体的にイメージを組み立てていくことができます。実際に試して、操作して、比較して、実感しながら、住まいづくりにおいて大切なことをさまざまな角度から楽しく学べます。あらゆる体験を通じて「理想の住まい」を追求できるこの施設を、積水ハウスは広く一般に無料開放しています。

また「納得工房」では、住まいや暮らしに役立つ多彩な学習の場を用意しています。目的に応じて、どなたでも参加できる講座やセミナーを開催。これまでの実績と蓄積してきたノウハウに基づく、さまざまな情報を提供しています。さらに、来館者の声やアンケートの結果を収集・分析。貴重な情報源として、新たな研究・開発や、これからの住まいと暮らしのあり方の提案に役立てていくと同時に、生活者データとして広く社会に発信し続けています。



特殊な装具を使って、
高齢者の使い勝手を体感



設備や調理機器を比較体験し、
わが家に最適なキッチンを追求



住まいについて幅広く楽しく学べる
「すまい塾 こだわり講座」を開講



アンケート調査の結果を「データぱる」にまとめ、生活者情報として発信

【関連項目】

> [「納得工房」ホームページ](#) 